

	東北大学 理学分野
学部等の教育研究 組織の名称	理学部（第1年次:324） 大学院理学研究科（M:262 D:130） 大学院生命科学研究科（M:106 D:47） 金属材料研究所 多元物質科学研究所 災害科学国際研究所 電子光理学研究センター
沿 革	<p>明治40（1907）年 東北帝国大學創立</p> <p>明治44（1911）年 東北帝国大學理科大学設置</p> <p>大正8（1918）年 理科大学は理学部に改編</p> <p>昭和24（1949）年 新制東北大学理学部設置</p> <p>昭和28（1953）年 理学研究科設置</p> <p>平成13（2001）年 生命科学研究科設置</p> <p>大正8（1919）年 東北帝国大學附属鉄鋼研究所設置</p> <p>大正11（1922）年 金属材料研究所設置</p> <p>昭和16（1941）年 選鉱製錬研究所設置</p> <p>昭和18（1943）年 科学計測研究所設置</p> <p>昭和19（1944）年 非水溶液化学研究所設置</p> <p>昭和41（1966）年 理学部附属原子核理学研究施設設置</p> <p>平成3（1991）年 非水溶液化学研究所を反応化学研究所に改組</p> <p>平成4（1992）年 選鉱製錬研究所を素材工学研究所に改組</p> <p>平成13（2001）年 素材工学研究所、科学計測研究所及び反応化学研究所を再編統合し、多元物質科学研究所設置</p> <p>平成21（2009）年 電子光理学研究センター設置（改組）</p> <p>平成22（2010）年 金属材料研究所、多元物質科学研究所が共同利用・共同研究拠点に認定</p> <p>平成23（2011）年 電子光理学研究センターが共同利用・共同研究拠点に認定</p> <p>平成24（2012）年 災害科学国際研究所設置</p>
設置目的等	<p>明治40年、理学部・理学研究科の母体の一つである東北帝国大學は、「国家ノ須要ニ応スル學術技芸ヲ教授シ其蘊奥ヲ攷究スル」こと（帝国大學令第一条）を目的として設置された。</p>

	<p>明治40年、東北帝国大学創立と同時に、学術技芸の理論及び応用を教授するため、分科大学として仙台に東北帝国大学理科大学が設置された。大正8年に理学部となり、昭和24年の新制国立大学の発足時は、東北大学理学部として承継された。</p> <p>昭和28年、自然の真理を解き明かす自然科学の創造及び発展を推進し、人類の自然についての知識を豊かにするとともに、社会の進歩に貢献し、及び国際的研究環境下で先端理学研究を先導することができる質の高い人材を育成することを目的に、理学研究科修士課程及び博士課程が設置され、昭和50年に理学研究科博士前期2年の課程、後期3年の課程に名称変更された。</p> <p>平成13年、分子から集団までの階層を網羅する生命現象を対象に先端的な生命科学の教育研究を行うことにより、生命・環境倫理に裏付けられた幅広い生命科学の教養を身に付け、かつ、生命科学の新たな展開を担い得る人材を育成することを目的に、生命科学研究科が設置された。</p> <p>大正11年、材料科学に関する学理及びその応用の研究を行うことを目的に、金属材料研究所が設置された。</p> <p>平成13年、多元的な物質に関する学理及びその応用の研究を行うことを目的に、多元物質科学研究所が設置された。</p> <p>平成24年、災害科学に関する学理及びその応用の研究を行うことを目的に、災害科学国際研究所が設置された。</p> <p>平成21年、原子核物理学、加速器科学、物質科学等の物質諸階層の基礎と応用の研究を推進し、新たな電子光ビームの開発を通じて未踏研究分野の開拓及び新研究領域創造を目指すとともに、電子光科学諸分野における研究者、技術者等の養成を行うことを目的に、理学部附属原子核理学研究施設が転換され、電子光理学研究センターが設置された。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>東北大学は、建学以来の伝統である「研究第一」と「門戸開放」の理念及び「実学尊重」の精神を基に、世界最高水準の研究・教育を創造する。</p> <p>本学の理学分野は以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <p>○ 人類社会の未来に資するため、研究科、附置研究所、学内共同教育研究施設等の連携の下、社会の多様な分野で活躍できる高い基礎学力と専門的知識を有する人材の育成の役割を果たすと同時に、理学のフロンティアを開拓する最先端の知識、及び豊かな想像力と優れた研究能力を有し、自立した研究活動を行う人材の育成の役割を果たす。</p>

- これまでの国内外で活躍する理学分野の人材育成の実績を踏まえ、課題設定・解決能力を有し基礎科学研究を主体的に先導し、世界で活躍できる国際的な理学系人材を育成する。このため、全学で推進する高度教養教育と連携し、新しい理学教育の展開を図る。産業界や国際機関等においても、理学の専門知識と研究能力を生かせる人材を、企業等と連携して育成する。
- 理学のあらゆる分野における高い研究実績を生かし、各分野で世界トップクラスの最先端研究を一層推進する。また、理学分野の研究科、附置研究所、学内共同教育研究施設、WPI拠点等を中核的研究拠点として、幅広い理学分野を有する強みを生かし、実験・観測と理論が一体となって新たな学問を創造する学際的・国際的研究を一層推進する。
- 材料科学、物質・デバイス科学、災害科学、電子光理学等の強みを生かして、新しい理学の創成と発展のために、共同利用・共同研究を一層推進する。
- これまでの社会貢献の実績の下、人類全体の知的財産である理学的思考法や理学分野の研究成果を社会に啓蒙・普及し、国内外の次世代の人材育成に資するために、広報・アウトリーチ活動を一層推進する。
- 産業発展につながる基礎的な知識・技術の構築、及び地球環境問題や自然災害に関する理学分野の知識の蓄積、啓蒙を通じて社会に貢献する。
- 社会のニーズに対応した社会人の学び直しの機会を提供し、社会の高度化・活性化に貢献する。
- 被災地の中心にある総合大学として、理学分野の力を結集し、被災地域の復興と我が国の再生に向けた取組を推進する。